



あっと つしま

思い浮かべてください…

いつもそこにいる

いつものお医者さん

頼りになります かかりつけ医

日ごろの皆さんの健康状態を知っていて、気軽に何でも相談できる「かかりつけ医」。生活背景を把握し、適切な診療や保健指導を行います。ちょっとした体調の変化にも気づきやすく、病気の予防や早期発見・早期治療が可能です。

かかりつけ医がない場合、自己判断で受診を控えたり、間違った対処法をとっているうちに重症化してしまうことがあります。

さまざまな医療機関 と連携しています

かかりつけ医は、場合によっては、患者さんがより適切な医療を受けられるように、専門の医療機関を紹介してくれます。病状や経過など治療に役立つ情報を添えて紹介状を書きますので、初めての医療機関でもそれらを参考に診断・治療を行います。

いざというときに困らないために、自宅や職場の近くに信頼できるかかりつけ医を持ちましょう。

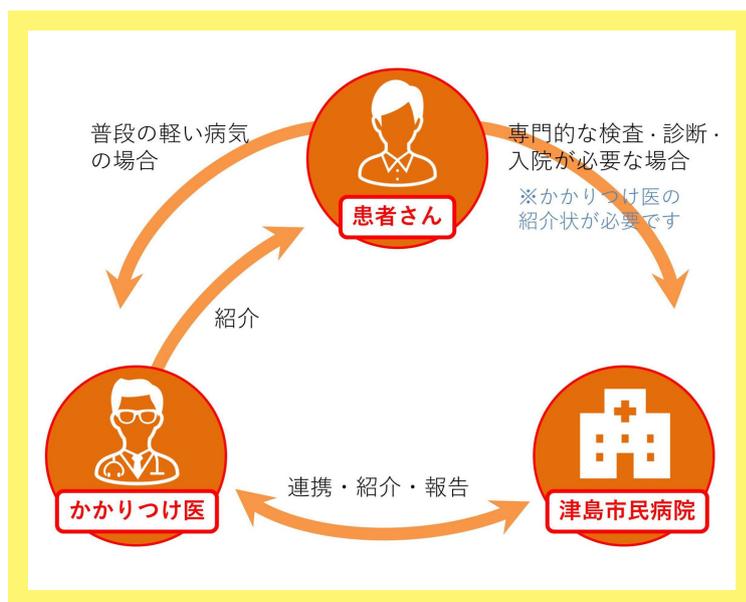
医療機能の分担と 専門化

風邪やちょっとしたケガ、生活習慣病や慢性疾患の管理は診療所のかかりつけ医が担当し、より高度な検査や入院治療が必要なときは診療所からの紹介で病院が担当します。

病院での治療で病状が安定したら、再び紹介元の診療所で治療や経過観察を行ってもらいます。（病診連携）

この仕組みを活用することにより、地域医療における効率的な医療提供が実施できます。

なお、二次医療機関で対応できない専門的で特殊な診断など、さらに高度な治療を要する場合は、大学病院などの三次医療機関が担当します。（病病連携）



津島市民病院は主として入院治療、専門領域の診察、救急医療などを担う二次医療機関です。

自分らしい生活を 続けるために 〈地域包括ケアシステム〉

病気や障がいを抱えても住み慣れた地域で自分らしい生活を送るためには、5つの構成要素「医療、介護、予防、住まい、生活支援」が重要です。在宅で患者さんを支えるということはかかりつけ医だけではなく、多職種・多機関の連携により成り立つものです。津島市民病院は海部地域における基幹病院として、地域の病院・開業医・医師会や介護事業所と共に地域医療に貢献しています。

編集後記

超高齢社会となり、介護や医療の必要度が急激に高まることが指摘されています。認知症高齢者が増えることが予測されており、地域社会全体で超高齢社会を支えていく必要があります。

津島市民病院 広報委員会
2021年7月発行